

# 南会津町商店街の空き店舗活用計画

a220903 薄井美里、a220905 大澤みゆき、  
a220921 中村晴香、a220927 門司紗季、a220930 渡辺五月

## 研究概要

南会津町旧田島地区の商店街は、過疎化や少子高齢化などにより活気がなく、空き店舗も多い。昨年度の本ゼミの研究で同地区の地域活性化のための空き店舗活用案が提案されたが、本年度は提案だけでなく、現地調査や検討会を行なった上で実際に地域の特性にあった空き店舗の活用を実施する。また、食物栄養学科真鍋ゼミと合同して空き店舗活用に繋がる食品のメニュー開発等も行っていく。

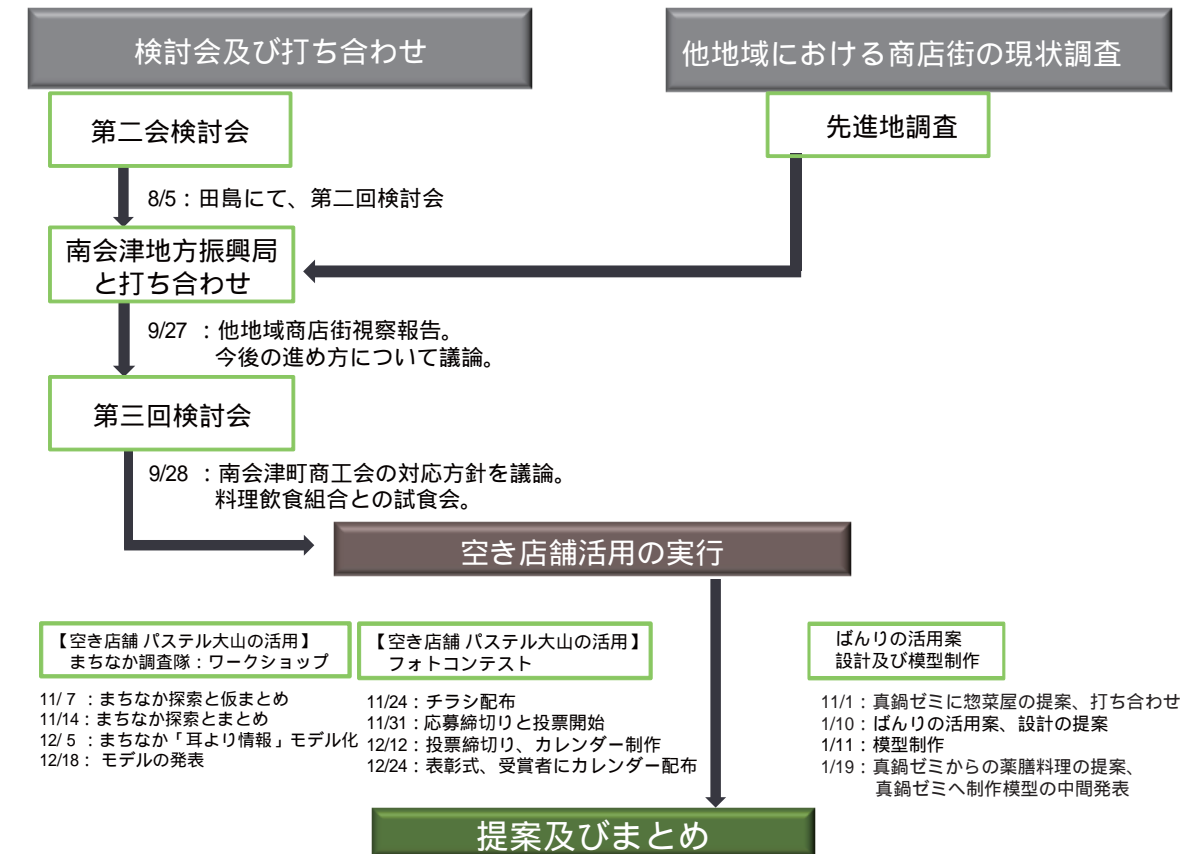
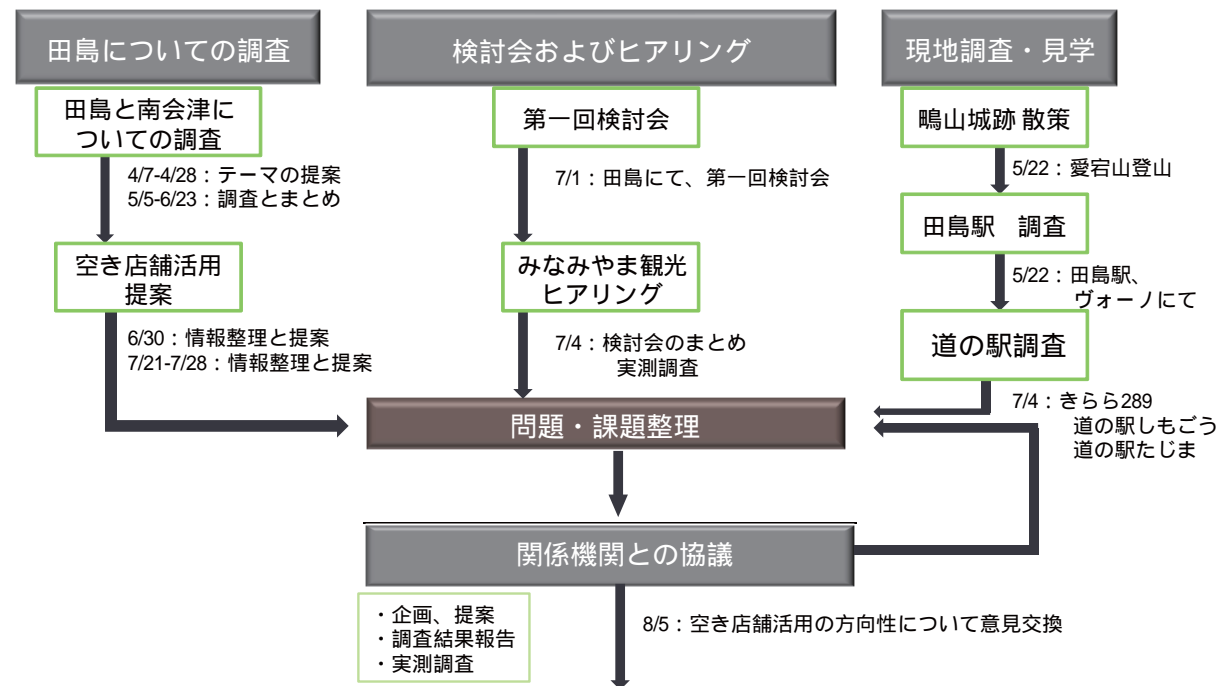
## 研究目的

旧田島地区は、南会津町の中心地である。都心からのアクセスも良く、観光客の通過地点でもあるため道の駅などは利用者が多いといえるものの、商店街は人口減少や高齢化のため利用者も少なく、空き店舗も多い。

本研究では、地域住民の商店街に対する興味を高めるとともに、観光客等を街へ誘引することを目的とする。特に、旧田島地区の特性を踏まえながら、商店街及びその周辺の実情を再確認することにより、地域を再認識・発見する。また、それらの資源を活用する方法を模索しながら商店街及び周辺への誘客・誘引に繋がる提案を行うことにより、空き店舗を活用した地域活性化のきっかけづくりを試行する。

## 研究方法

調査は下図にまとめたように数回の現地調査やヒヤリングを実施し、3回にわたる検討会を関係機関（南会津地方振興局、南会津町、南会津町商工会）との打ち合わせによって空き店舗活用の方向性を具体化して行った。活用案の提案と問題・課題の整理を繰り返し、2つの空き店舗の活用案を具体化した。その提案に沿って実行した。



## 田島地区の調査

### 田島についての調査

4月上旬から中旬にかけて田島と南会津についてインターネットなどを用いて調査を行った。4月下旬からはこれらの調査から得た情報をそれぞれ模造紙にまとめた。その際、「基本情報（立地、人口など）」、「食べ物」、「産業」、「観光資源」の4つにカテゴリーを分けて情報を整理した。そこから、田島は自然に恵まれた環境であり、アスパラとトマトが特産品であることが分かった。また、関東からの観光バスが頻りに停車することや、浅草から田島まで電車が走っていることなどから、都市圏からの交通の便がいいことが伺える。一方、観光資源では祇園祭・鳴山城跡といった有名所もあるが、他地域と比べ、比較的少ないことが分かる。これらの情報をもとに、田島商店街の活性化案を検討した。

### 第一回検討会およびみなみやま観光ヒヤリング

田島にて南会津地方振興局、南会津町、商工会ら関係機関と共に第一回検討会（7月1日）が行われた。内容としては、会津大学短期大学部よりこれまでの取り組み状況、田島商店街の現状、今後の進め方のスケジュールについて報告し、それらに対する意見交換を行った。ここでは、シャッター街が増えてきている田島の現状を把握し、大通りやその裏にどんなひとが住むのか理解することで活性化の糸口を探る提案が検討された。また、大通りに面していない観光客が見つけづらい店舗など調べ情報を発信することで新たに観光客を呼ぶ材料にすることもできると考える。

みなみやま観光にて行ったヒヤリング調査（7月4日）では、田島の観光資源や特産物について話を伺った。ヒヤリングの中で、田島を象徴する特産品やイメージがないことが問題であることが分かり、その面でも活用案を考える方針となった。また、同日まちなか楽座の実測調査も実施した。

### 現地調査・見学

5月22日には田島へ出向き、実際に田島の商店街を歩き鳴山城跡を散策した後、田島駅を見学するなど田島の街中の現状を肌で感じる体験となった。

7月4日には、きらら289、道の駅しもごう、道の駅たじまを見学。利用者が多数見られ、地域産材を活用した特産品や土産品も多数販売されていたが、県内の有名ブランド品が売上げを占めていた。

他地域における商店街の現状調査

空き店舗活用案の有効策の一つとして惣菜店があげられた。地元主婦によって調理・運営される惣菜店は、顔見知りということで信頼性もあって地元の人が店に入りやすく、地域住民のコミュニティ性を高められる場にもなる。また惣菜という商品は毎日のおかずにも悩む母親や、食事の栄養バランスが偏りがちな高齢者や単身赴任のサラリーマンなどにバランスの取れた食事やおふくろの味を提供することができ地域にも十分貢献できると考え、頑張る商店街77選に選出された商店街から空き店舗を惣菜店として活用している新潟県上越市の直江津中央商店街、長野県佐久市の岩村田本町商店街を挙げ、ピズカフェやプレーゴ広場を運営する石川県金沢市の片町商店街を加えて調査対象とした。

岩村田商店街では「地産地消」を掲げ、安心安全な手作りの惣菜を常時50種類揃えている他、地元の特産品を使用した新メニューの開発も行っている。年間300万円の利益を上げ、今や商店街に無くてはならない「地域の台所」となっており、惣菜屋は地域での需要が高いということが分かった。また、直江津商店街では高齢化が進んでおり、商店街全体の印象から環境としては田島の商店街と類似性が感じられた。課題は多々あるが徐々に住民に認知され、おかず屋が地域になくなくてはならない存在になりつつある。まだ未成熟ではあるが商店街の振興に一役を担いつつあり、田島における惣菜店の可能性を確信した。片町商店街では、地元企業、行政、大学との連携を取りながら、IT化による商業振興を目指してきており、「空き店舗対策」の一環として商店街関係者の交流の場、情報発信の拠点等とするピズカフェを整備しているが、設備やマーケットの違いにより参考にするのは難しいと判断した。



岩村田本町商店街「おかず市場」 直江津中央商店街「おかず屋い〜あんばい」 片町商店街「ピズカフェ」

空き店舗「パステル大山」(まちなか楽座として活用中)の活用案

町の宝(面白い・珍しい・気になる・美味しいなどの ヒト・モノ・コト)の再発見と町中の再認識を図るとともに、これらの情報を「まちなか楽座」から発信することで田島の商店街の人々と地域住民の交流促進や回遊性に繋がるきっかけをつくるのが可能と考え、ワークショップを実施した。ワークショップは、地元住民と私達が「まちなか調査隊」としてチームを組み、田島の商店街を中心に付近のまちなかを探索して、おもしろい、おかしい、珍しい、楽しい、不思議など様々な「耳より情報」を集めた。ワークショップの成果としては92件の耳より情報が集まった(商店街情報39店舗、周辺情報24件)。調査を進める中では、まちなかの方の話を聞きながら交流を深めることができ、地域住民の交流促進につながったと感じた。

これらの結果を「まちなか楽座」から新情報・珍情報として発信するために、耳より情報のモデル化(模型制作)を行った。耳より情報を発信するための模型は卓上配置でも壁掛け状態でも使えるように設計し、個々の耳より情報は発信場所に項目の要点を記載したフラッグを立てた。また、インデックスを附記した詳細カードを作成し、耳より情報のフラッグと共通番号及び情報のジャンルで検索できるようにした。

ワークショップと並行してフォトコンテストも企画・提案した。地域住民にもまちなかの魅力を改めて発見してもらう機会を作るため、まちなかの面白い、珍しい、楽しい、気になる、不思議、美味しいなど自慢の写真を募集した。応募作品7点から最優秀賞3点を選考するとともに、入賞作品を含む耳より情報のカレンダーを制作し副賞とした。「自分の撮った作品が実際にカレンダーになるとやりがいがある」と語っており、今後の地域の写真撮影へのモチベーションの向上やまちなかの魅力を探すことに繋がるなど。



まちなか耳より情報 たじまっぶ (模型サイズ: 2,200x900mm)



詳細カード収納箱



詳細カード

まちなか調査隊 たじまっぶ



カレンダー「田島だもの」



フォトコンテスト最優秀賞作品

空き店舗「ばんり」の活用案

空き店舗ばんりの活用案として2案提案した。1つ目は、食物栄養学科の真鍋ゼミとコラボした薬膳料理を提供する店舗である。店内は純和風のイメージで、高齢者をはじめとする地域住民のコミュニティになる場を目指して制作した。薬膳によって身も心も健康的になっていく店舗を提案した。また、2つ目は地域に根ざしたお惣菜屋を提案した。レトロなつくりになっており、高齢者には昔を懐かしませるような、そして若者からはおしゃれな場所として親しまれる店内になっている。量り売りにより店員とコミュニケーションがはかれる点と、ドリンク各種も揃え、お惣菜カフェとして観光客も立ち寄れるのが特徴である。

ばんり店舗活用提案模型 右:薬膳料理屋 左:惣菜屋 1/30

